

豊かな心の育成

思いやりの心をもつ児童の育成

～道徳教育の実践を通して～

1. はじめに

本校では、学校目標である「のびゆく子」の育成のために

- ① かんがえる子(自ら考える力の育成)
- ② やさしい子(豊かな心の育成)
- ③ たくましい子(健やかな心身の育成)

を育てることを目標としている。平成29年度、30年度は、②の「やさしい子」の育成を目指し、道徳の授業をきっかけに指導を進めてきた。特に「他を思いやる心や態度」や「仲良く助け合う心や態度」について実践をした結果、少しずつどの学年も思いやりの態度が見られるようになってきた。

2. 本年度の努力点研究のねらい

本年度は、過去2年間の成果を踏まえ、さらに思いやりの心を伸ばしていきたい。初年度は、道徳の4つの視点、

- ① 主として**自分自身**に関すること
- ② 主として**他の人**とのかかわりに関すること
- ③ 主として**自然や崇高なもの**とのかかわりに関すること
- ④ 主として**集団や社会**とのかかわりに関すること

のうち、「②主として他の人とのかかわりに関すること」に主点を置き、友達とのかかわりの中で、相手の気持ちを考えた行動や言葉について考えさせた。また、昨年度は少し幅をもたせ、①・③・④も含んだ多角的な視点から、思いやりの心を育ててきた。今年度は、昨年度に引き続き、幅広い視点で思いやりの心の育成をさらに伸ばしていきたい。

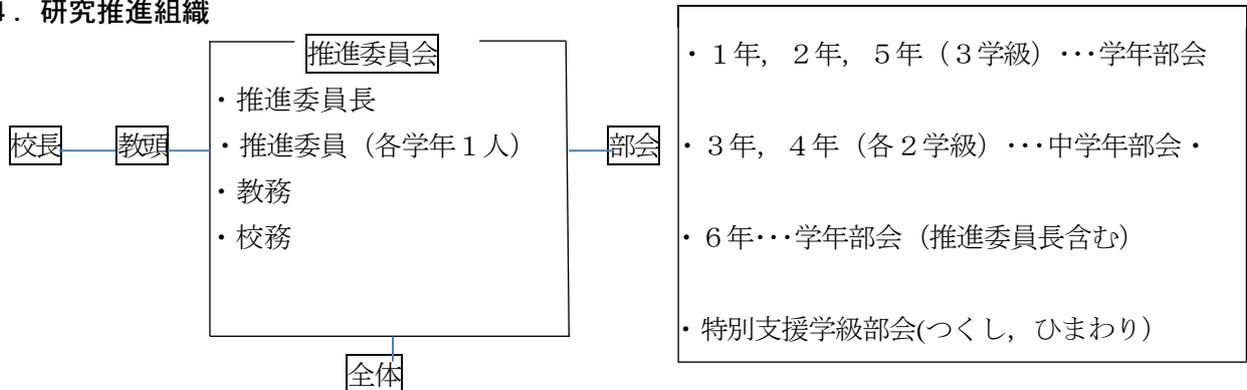
3. 本校の実態

本校の児童の実態として、「人がうれしくなることって何だろう。本当にしてほしいことって何だろう。」と、優しさについて考え、人の気持ちに寄り添おうとする姿が少しずつ見られるようになってきた。しかし、言葉が伴わず、心では思っていなくても意地悪を言ったり、悪態をついたりして、気持ちがすれ違いトラブルになることもまだまだ多い。「人のことを思いやる」とは、心の中で思い考えるだけではなく、言葉でも表されなければならない。ぼかぼかする温かな気持ちを人に感じさせるような「ぼかぼか言葉」について考えさせ、身の回りのあらゆる事象に対して優しい心をもたせたい。そういった意味で、まだまだ「思いやりの心」を深めていくには、引き続き道徳を中心とした日常での実践が

必要である。

そこで、今年度は「ぽかぽか言葉」に着眼し、実態把握の後に、各学年のテーマを設定して授業実践・日常実践を行うこととする。

4. 研究推進組織



5. 平成31年度の研究推進計画

時 期		内 容
一 学 期	4・5月	児童の実態把握 研究主題の設定 組織の検討 推進計画の検討・決定
	5～7月	授業の実施・公開
	7月	1学期の振り返り 2学期に向けた改善点の検討
二 学 期	9月 ～ 12月	授業の実施・公開 児童の変容 前期実践報告（中間報告）10月 授業の実施・公開
	1月 ～ 3月	授業の実施・公開 児童の変容 後期実践報告（最終報告）2月 次年度に向けての推進計画検討

6. 平成31年度の実践内容公開について

- 学年内で話し合い、「育てたい児童像」を目指して実践を進めていく。各学級1実践行う。（前期，後期に分かれて行う。3学級の学年は，前期，後期どちらかに2実践行う。）掲載実践は前期と後期に分けて行う。
- 授業の公開については，1・2・5年生は各学年での部会，3・4年生は中学年部会，6年生は部会（推進委員長含む）とし，原則全員参加とする。公開のある前日までに指導案の検討会，公開日当日か後日に授業の検討会を各部会で設け，実践者の授業に対する説明と，参加者の意見を交流できるようにする。
- 児童の実態を4月または5月に把握し，10月と1月には児童の変容をつかむようにする。
- 道徳授業としては，引き続き思いやりにかかわる授業実践を行う。常時活動、学級活動として、「思いやりの木」を常掲し、言われてうれしかった言葉、心が温かくなった言葉を中心に、いつも児童の目に留まり波及効果をねらうようにする。